

～安心を未来へ～

2011年12月14日発行 12月号 No. 202

◇2011年度「ロジスティクス産学連携コンソーシアム」第一回委員会に参加して

本部長代行 松本 有司〔台東支部 金方堂運輸株〕

耳慣れない活動かもしれませんが昨年に続き継続実施しているこの活動は、流通経済大学の講師陣と全ト協推薦の民間客員講師が一体となり「ロジスティクス実践講座」「物流マネジメント実践講座」「国際物流実践講座」「情報システム実践講座」「ロジスティクス企業訪問講座」「ロジスティクス改善演習」の6科目と日本通運並びに全国通運連盟の寄付講座を加えた8科目の講座を通して、大学に於けるロジスティクスに対する実践的な人材育成プログラムの開発・構築・実証と、有望な人材の輩出を目的に行なわれているものです。

12月5日に実施された会議の目的は講師陣からの意見抽出と産学両面からの意見の整合化でしたが、その実は講師陣に対する講義内容の評価でもあります。当然緊張した面持ちで参加しましたがプログラム全体の評価としては幸いにも前回に続き90%の学生さんから実践的で有益であったとの評価に安堵しました。しかし、3月の第二回会議では各講座毎の個別評価の予定。3年前の実験期間から共に参加している川崎陸送の樋口社長が受け持つ「3PLの役割と事例」の講座評価内容が何時も高にだけに（MBAを取得している学閥の先輩と競うつもりはありませんが）当面、自ら切磋琢磨を続けなくてはなりません。

大学側から講師陣に対し「物流の楽しさ、夢を含めて欲しい」と要望があり、私からは「プログラムが多岐に及ぶため、重複した表現を防止する目的で他講座のレジュメを開示頂きたい」と要望（本音は他の講座のレベルを確認したいのですが）。樋口社長からは「レジュメと共に各講座に最低必要なキーワードも示唆願いたい」と背中を押して頂けるようなご発言。次回対応頂く事となり心の中で「先輩有難うございます」と感謝。また樋口社長は「このプログラム受講したら200万円位の価値はあるよね」と笑顔で仰ってましたが、最後にご報告したい点として、本プログラム受講生（講座によって若干の違いはあるものの）約3割が中国人であることは常に考え深いものが残らざるを得ません。

◇前回に引き続き「温故創新セミナー台湾訪問報告」

「高砂義勇隊」

広報副委員長 鈴木 貢〔葛飾支部 有すずか梱包運輸〕

今回、ロジ研で台湾を訪れた。昨年瀋陽と大連を訪問して、坂之上の雲で有名となった秋山兄弟の足跡ならびに、かの203高地での乃木大将の人物を紐解いた。今年はその乃木大将が就任していた台湾総統府を足がかりに、日本の歴史を振り返る旅をしてきた。

始まりは定番の観光コースから、今回の旅行で印象に残ったのが、最後の日に訪れた、烏来に建立されている高砂義勇隊の慰霊碑だった。

台北から車で一時間ほど離れた山間部の烏来という、タイヤル族と呼ばれる先住民族の村で温泉地の奥まったところにたたずんでいた。

高砂義勇隊（たかさごぎゆうたい）は太平洋戦争末期、台湾原住民により編成された6000人からなる日本軍の部隊で、フィリピン、ニューギニアなど密林地帯の戦場に投入するために創設された。徴兵ではなく志願だったというから驚いた。当時の日本の教育を受けていた現地の人たちがいかに日本と同化していたかを伺わせるエピソードだ。

しかし戦後、日華平和条約により、日本国籍を喪失し日本人でなくなったとの理由で、日本政府は台湾人を戦争被害の補償対象から除外してしまった。そのため元軍人・軍属やその遺族に対して障害年金、遺族年金、恩給、弔慰金、また戦争中の未払い給与、軍事郵便貯金等の支払いを一切行わなかったという。現在でも多くの未払給与があり、日本政府と台湾との国交がないことを事由に、補償は今でも行われていない。

それは余りにもひど過ぎるということで、有志が義援金を集めて建立したのがこの高砂義勇隊の慰霊碑なのだ。

政治的、思想的な反対で建立は順調に進んでいったわけではなかったようだが、私が足を運んだときは何人かの日本人として戦争で亡くなった高砂族の若者の名前が刻まれていた。残念ながら戦没者全員の名前は確認できなかったが、かの地に日本の将来を夢見て散っていった外国人（現在は日本ではない）がいたことにとっても衝撃を受け、この歴史を葬り去ってはけしていけないと慰霊碑に誓った。

いつか、台湾に行く機会があったら是非この場所を訪ねてもらいたいものだ。戦争の爪あととということではなしに、ここには純粋な若者の魂が眠っている。

「民國N年」

松本 有司〔台東支部 金方堂運輸株〕

民國N年とは辛亥革命1911年の翌年に中華民国が樹立された年を元年とする年号。N年に1911年を足すと西暦年号に一致する。また偶然にも民国元年は大正元年、北朝鮮チュチェ暦元年に一致する。

さて台湾訪問の目的は「ひびき」11月号巻頭にて竹内本部長より報告があった通りであります。全行程に於いて私なりに最も印象強かった言葉は「教育水準の向上を目的に日本語教育が行なわれ14民族間、初の共通言語として統一国家樹立への礎となった」そして「旧日本軍は武力にて、その後押し寄せて来た外敵から我々を守ってくださった」の二つの言葉であります。戦犯としての我が民族への酷評は否めませんが、世界には今日まで親日続ける少数派が存在することも史実として語り継ぐ必要性を感じざるを得ません。



高砂族の若者の名前が刻まれた碑



中華民國九十六年の50元硬貨

◇首都高速値上げのアメ・・・Part 2

10月号に掲載をした首都高値上げ問題は予想通りの<アメ>が提示されて決定となった。割引も最大30%との事で、この辺りが落とし所なのだろうと私なりに思えた。

早めの忘年会の折に飲み仲間とその話題となった。私が「この辺が妥協線なのかな？」と言うと、飲み友曰く「妥協などあるか、あくまで我々は値上げ反対で、首都高が勝手に割引をしたと言う事だ」・・・って、強気な人だ(笑)。

そこへ「ちょっと待ってください」と若手社長。「今回はETCコーポレートカードの割引のみで、ETCクレジットカードに割引が無くなり、かつETCコーポレートカードの割引にも問題がでますよ」との事。

彼が説明するには・・・そもそもETCコーポレートカードにはNEXCOとの間に発行組織の利用総額500万円以上とカード1枚平均3万円以上という契約単位割引要件がある。各協同組合はこの基準をクリアさせる為にETCクレジットカードを発行し、ETCコーポレートカードでより多くの還元を受けようとして試行錯誤の努力をしている。ETCクレジットカードの割引を無くし、ETCコーポレートカードに移行した途端、首都高の割引は受けられるがNEXCOの割引は1枚平均3万を割り込み、割引が受けられないというのだ（そのデメリットの方が大きい）。

解決策はパスモとスイカの相互関係であれば良いと言う。つまり、首都高用カード車両とNEXCO使用カード車両に分ければよいのだが、今更、首都高側がカードを発行し、システムを構築する為に時間と莫大な開発費はかけられないとの予測は容易にできる。では、他に手は有るのかと言うと、NEXCO約款に、発行するETCコーポレートカード使用会社は別の組合で重複してのカード発行は出来ないとするが、その約款の一部を変更出来るのであれば、我々は協同組合を重複加入（首都高カード専門組合、NEXCOカード専門組合）することができるようになる。あくまでもNEXCO次第と言う事に成るのだが・・・。

それよりも心配なのは割引期間が2年間であると言う事だ。延長ありが前提とは誰も言うてはいない。割引が無くなったとしても約束が違うとは誰も言えないと言う事なのである。今のままではその《割引》も絵に描いた餅にしかならない・・・と、彼は言うのだ。

むむむ・・・思わず私と飲み友は目の前のグラスをあおった。「おい、濃いぞ」と彼が言う。当たり前だ、話に夢中で水は差していないからなあ・・・。

ロジ裏 研ノ介

◇お知らせ《○ロジ研行事予定》

○2/8(水)16:00～三組織合同セミナー・新年会(明治記念館)
近日通知いたします。